

# 群大重粒子倶楽部



## CONTENTS

- ❖ 重粒子線治療の保険適用、新たに3疾患が追加
- ❖ 新しく保険適用になった疾患について  
大腫瘍径の局所進行子宮頸部扁平上皮癌・婦人科領域悪性黒色腫  
早期肺癌
- ❖ 重粒子線医学センターへの患者さんのご紹介について

# 重粒子線治療の保険適用、新たに3疾患が追加

群馬大学医学部附属病院 重粒子線医学センター センター長 大野 達也



2024年度の診療報酬改定にて、重粒子線治療の保険適用として新たに3疾患が追加されました。追加されたのは、子宮頸部扁平上皮癌、婦人科領域悪性黒色腫、早期肺癌の3つです。

当院では2010年から重粒子線治療を先進医療として開始しました。2016年からは国内の統一治療方針が作成されて全施設が参加する前向きレジストリを開始、さらに重点的に取り組む疾患は多施設臨床試験を実施するなどエビデンスの構築に努めてきました。これまでに保険適用となった重粒子線治療の疾患は、骨軟部腫瘍、頭頸部腫瘍、前立腺癌、肝細胞癌、肝内胆管癌、膵臓癌、大腸癌骨盤内再発、子宮頸部腺癌とあわせて、のべ11疾患となりました。その他、局所進行肺癌、食道癌、肺・肝臓・リンパ節に限局した転移癌等は、引き続き先進医療として実施されています。地域別には群馬県内のみならず、埼玉県、栃木県、新潟県、長野県など隣接県

からの患者さんが多数紹介されています。医療機関としては、大学病院やがんセンター、地域のがん診療連携拠点病院からが多くを占めていることから、広域医療圏で集約化された医療技術としてネットワークが形成されていると考えられます。

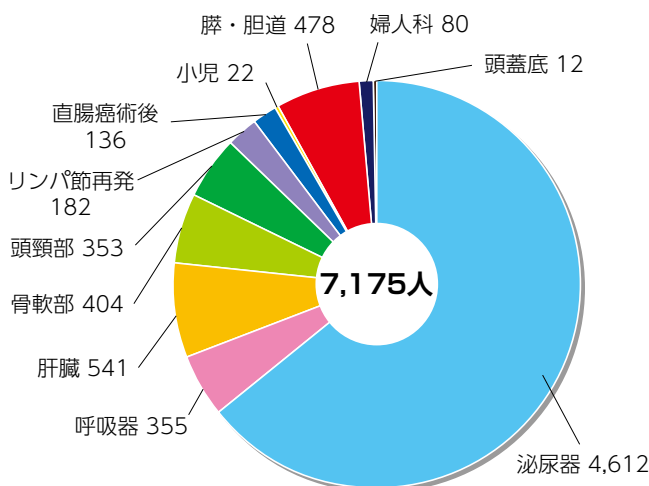
重粒子線治療の魅力は、良好な線量集中性に基づく副作用の少なさ、生物学的効果を活かしたエックス線抵抗性腫瘍への効果、そして照射期間が1週から4週と短いことにあります。当院は、大学病院に設置された利点を活かし、関連診療科とも連携した集学的治療の提供に強みがあります。本号の記事をご覧いている医療機関の皆様におかれましては、治療戦略の一つとしてこの重粒子線治療をご活用いただければ幸いです。

それぞれの疾患の詳細については、本号で担当医が解説しています。病院のホームページでもご覧になれますのでそちらもご参照ください。

重粒子線医学  
センターHP



## 重粒子線治療患者の内訳



※数字は延べ治療人数(2010年3月~2024年4月末まで)

## 保険適用の疾患

- 限局性の骨軟部腫瘍\*
- 頭頸部悪性腫瘍(口腔・咽喉頭の扁平上皮癌を除く。)
- 限局性及び局所進行性前立腺癌(転移を有するものを除く。)
- 肝細胞癌(長径4センチメートル以上のものに限る。)\*
- 肝内胆管癌\*
- 局所進行性膵臓\*
- 局所大腸癌(手術後に再発したのものに限る。)\*
- 局所進行性子宮頸部線癌\*
- 早期肺癌\*(I期からII A期までの肺癌に限る。)
- 局所進行性子宮頸部扁平上皮癌\*(長径6センチメートル以上のものに限る。)
- 悪性黒色腫\*(婦人科領域の臓器から発生した悪性黒色腫に限る。)

※手術による根治的な治療法が困難であるものに限る。



## 新しく保険適用になった疾患について

### 大腫瘍径の局所進行子宮頸部扁平上皮癌・ 婦人科領域悪性黒色腫

講師 安藤 謙



2024年6月から①大腫瘍径（6cm以上）の局所進行子宮頸部扁平上皮癌、②婦人科領域の悪性黒色腫に対する重粒子線治療が保険適用となります。①子宮頸癌は婦人科領域の中でも頻度の高い腫瘍であり、進行期では手術は適応とならず化学放射線治療（X線）が標準治療となります。しかし巨大な腫瘍はX線治療の成績が悪く、殺細胞効果の高い重粒子線治療での効果が期待されます。当院での治療は重粒子線治療を16回（4週間）の後に小線源治療を3回（2週間）行い計6週間の治療を行います。一方で当院では小線源治療を工夫することでX線でも巨大腫瘍に対して良好な成績を示してお

り、患者さん毎に腫瘍の状態に応じて最適な放射線治療法について検討しています。②婦人科領域の悪性黒色腫は子宮・腔・外陰に発生する極めて稀な腫瘍です。手術が可能な場合は手術が第一選択となりますが、手術困難な場合はX線治療が選択されます。しかし悪性黒色腫はX線治療に抵抗性でありその成績は極めて不良で、こちらにもまた重粒子治療の効果が期待されます。重粒子線治療は16回（4週間）を行います。

いずれの疾患においても、婦人科を含めたカンサーボードで手術・化学療法・他の放射線治療モダリティについても検討し、患者さんごとに最適な治療法を提案します。適応の判断について迷われる場合はお気軽にご連絡ください。

### 早期肺癌

講師 久保 巨輝



2024年6月から早期肺癌（Ⅰ期からⅡA期まで）に対する重粒子線治療が保険適用となりました。早期肺癌の標準治療は手術であり、根治切除が何らかの理由で困難な症例が対象となります。特に間質性肺疾患合併症例や呼吸機能が悪い方には、肺への線量が少ない重粒子線の良さを活かした治療をすることができると考えております。

治療の回数は基本的には4回（1週間）ですが、縦隔に近い病変の場合は16回（4週間）の治療回数となります。5cmを超える症例（ⅡB期以上）やリンパ節転移症例に関してはこれまで通り先進医

療での治療を引き続き行っています。重粒子線治療の早期肺癌の治療成績は肺葉切除可能かどうかで異なり、肺葉切除が可能な症例では5年全生存率は81.8%、局所制御率は95.8%であり、葉切除不能症例では3年全生存率は59.3%、局所制御率は87.3%と報告されています。Grade 2以上の放射線肺臓炎は3%前後と報告されており、安全に治療することができております。

重粒子線治療をする前にはカンサーボードで適応について相談しており、重粒子線以外の選択肢についても再度検討しております。適応の判断に迷う場合なども含めてお気軽にご相談いただければ幸いです。

### オリンピック記念植樹の 桜がついに開花！

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を記念し2021年に植樹された桜がついに開花しました。



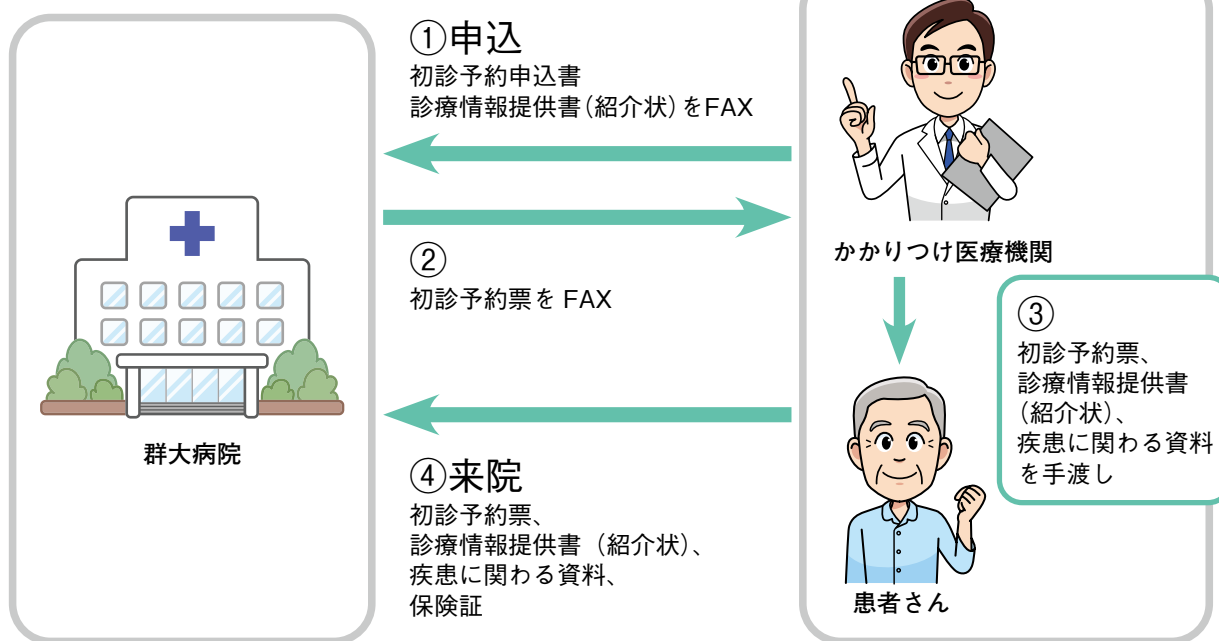
## 重粒子線医学センターへの患者さんのご紹介について

重粒子線医学センターの受診は、医療機関からの紹介による完全予約制となっております（図参照）。

- ①かかりつけ医療機関で初診予約申込書（当院患者支援センターのページよりダウンロードできます。  
（<https://kanjasien.dept.showa.gunma-u.ac.jp/chiikirenke.html#d>）すべての項目を記入し、診療科名は「重粒子線医学センター」を選択してください。診療情報提供書（書式の指定はありません。「群馬大学医学部附属病院・重粒子外来」宛）をご準備いただき、当院の患者支援センター宛にFAXをお願いします。
- ②FAXを受信後、15分を目安に予約を取得し、「初診予約票」をFAXで返信いたします。
- ③初診予約票、診療情報提供書の原本、CTやMRIなどの診断画像、検査データ、病理標本プレパラート（疾患に関わる資料）を患者さんにお渡しください。
- ④予約当日は、③の資料に加えて保険証を持参し、群馬大学医学部附属病院の外来棟1階中央受付（7番窓口）で初診の手続きをするよう患者さんにお伝えください。

詳しい流れについては、群馬大学重粒子線医学センターのHPをご覧ください。多くの患者さんに円滑な受診をしていただくため、ご協力をお願いいたします。

### 初診予約のシステム（FAX 予約）



### 群馬大学基金へのご寄附のお願い

治療開始から10年以上が経過し、近い将来装置のリニューアルが必要となるため、最新の治療技術を提供できるよう研究・開発を行っています。重粒子線治療の普及・発展のため、職員一丸となって取り組んでまいりますので、皆様からのご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

群馬大学基金  
QRコード



連絡先

月曜日から金曜日（午前9時から午後4時まで）

- 治療に関するご相談について …… 重粒子外来
  - 資料の送付やイベント情報について …… 総務課 法規・広報係
- \*詳細はHPをご確認ください。 <https://heavy-ion.showa.gunma-u.ac.jp/>

TEL 027-220-7891  
TEL 027-220-7895

QRコードはこちら→

